

	科目名	担当者 (ふりがな)	曜日・時限	教室	目標	内容	テキスト	成績評価法
	日本語Ⅰ総合B	桂 千佳子 (かつら ちかこ)	月曜・2限	N40Ⅰ	日本語でより深く自由に表現できることを目指す。 相手との関係や場面への配慮、母語との違い、視点の違いと表現の関係を考えながら、自分の意図通りのやりとりができることを目指す。	資料配布、課題などはすべてTeamsを通して行う。 インタビュー実践とその結果のシェアを丁寧に行っていく。 特に、選んだテーマについて、自分が本当に知りたいことを明確にした上で、どのような表現で質問するべきか、母語とのちがいなどを意識し、自分が求めている(知りたい)ことを引き出せる質問ができるように、質問文作成を丁寧に行う。その上で、実際に日本語ネイティブにインタビューをし、結果をまとめてクラスでシェアしながら質問と答えについて分析と考察を行う。	プリントを配布	授業参加度(授業時の指示に従った作業への取り組み)40%、 提出物 40%、 発表 20%
	日本語Ⅰ会話B	稲田 直子 (いなだ なおこ)	火曜・1限	N313	複雑で、抽象的なことが話せ、相手や場面に応じた適切な話し方ができる。まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる。	「説得力のある話し方」を身に着けることを目標に、短いスピーチ、ディスカッション、ディベートなどを行う。それぞれの活動のための下調べの課題がある。課題の提出や教材の配付にMicrosoft Teamsを使用するため、各自大学のアカウントにログインできるよう準備しておくこと。	プリント配布	授業参加度(出席・活動への参加・コメントの記入)50%、 課題提出 30%、 発表 20%
	日本語Ⅰ講読B	新谷 あゆり (しんや あゆり)	金曜・1限	N40Ⅰ	複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが読めるようになる。	短編・長編小説を展開や結末を想像しながら読む。小説の結末を書く。語彙・表現を学習する。	『阪急電車』有川浩(ありかわ ひろ) 幻冬舎文庫	参加度(出席・授業態度・課題)60%、 小テスト・期末テスト40%
	日本語Ⅰ作文B	桂 千佳子 (かつら ちかこ)	金曜・2限	N40Ⅰ	複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが書けるようになる。	資料配布、課題などはすべてTeamsを通して行う。 1. パラグラフ・ライティングの構造で意見文を書く 読み手にとってわかりやすい文および文章構造で意見文を書くために、パラグラフ・ライティングを実践する。特に、調べてわかったことを根拠とせず、自分の考えだけで説得できるよう論理関係を明確にし、より適切な日本語で書くことを目指す。 2. 様々な角度から日本語のことばについて調べ、特徴を明確にした上で、詩、物語、小説、俳句、脚本などの創作物を作成する。 すべての作業において、自分の日本語のスキルアップのために、AIや翻訳アプリをどう利用すべきかを考えていく。	プリント配布	授業参加度(授業時の指示に従った作業への取り組み)50%、 提出物 50%
	日本語Ⅰ文法B	岡 智之 (おか ともゆき)	水曜・1限	N30Ⅰ	上級の文法項目を習得する。	テキストの第2部1課から毎回2課ずつ進み、26課あたりまで進む予定。 毎回最後の「話してみよう」は宿題にし、次の回で発表してもらう。(扱った課は25Aとは異なる)	『マンガで学ぶ 日本語上級表現使い分け100』アルク	授業参加度30%、課題提出20%、 期末テスト50%

I	日本語I漢字B	坂田 睦深 (さかた むつみ)	火曜・2限	N3I3	1000字程度の漢字およびそれを使った語彙の運用力をつける。	・テキスト:『Intermediate Kanji Book, Vol.2』(凡人社)奇数課を学ぶ。 1、3、5、7、9、11課を学習予定。ただし、1課は行わず、13課を行うことも可能。 ・第1週で担当の学習者グループが「力だめし」を音読、学習漢字の一部をスライドを使って説明。教師が「要点」を説明。学習漢字を書く練習を行う。第2週はクイズ。クイズは「練習問題」(の一部)から出題するので、「練習」を自分でやって解答をみてセルフチェックしておくこと。そのほかに、その課の学習漢字を3つ挙げて、それらを選んだ理由を述べる問題も出る。・最終回の発表では、各課の学習漢字から3～5分程度で選んだ漢字についてプレゼンをする。	テキスト:『Intermediate Kanji Book, Vol.2 第4版』(凡人社)	各課のクイズ、期末テストで40%、課題(書き練習、授業内で行う「練習」のプリント)40%、発表(各課のスライドと最終回の発表)と平常点 20%の予定。
	日本語I聴解B	近藤 智子 (こんどう ともこ)	木曜・1限	N3I3	複雑で抽象的な内容や専門的な話題を理解できるようになる。論理展開や話者の意図を把握し、聴解した内容を要約・整理し、自分の考えを述べることを目指す。	ニュース・講義・インタビュー・ディスカッションなど、さまざまな映像・音声教材を用いる。聴解練習を中心に、要約やディスカッションを行い、幅広いテーマに対応できる聴解力・表現力を養う。 課題や教材の配付にはMicrosoft Teamsを利用するため、大学アカウントでログインできるようにしておく。	プリント配布	授業参加度(出席・活動参加・コメントなど)50%、課題提出30%、発表20%
	日本語I特別演習B [ドラマで学ぶ日本語]	宮本 典以子 (みやもと ていこ)	水曜・2限	N3I3	まとまった内容の抽象的な談話の流れが理解できるようになる。自分の考えが伝えられるようになる。	ドラマや映画を鑑賞し、実践的な話し言葉を学ぶ。取り上げる作品は、学園をテーマとしたものを中心とする予定。授業前半の活動(語彙・漢字・言語表現等の学習)はピア活動を基本とする。日本のドラマについての発表や交流タイム等のグループワークを1、2回実施する。作品ごとの課題シートや発表資料等を提出する。	プリント配布	授業参加度40%、提出物40%、発表20%
	日本語I特別演習B [ビジネスで学ぶ日本語]	福島 恵美子 (ふくしま えみこ)	木曜・2限	N305	ビジネスに必要な日本語の表現を身につけ、日本語を使用するビジネス場面で求められるコミュニケーション能力を養う。	ビジネス場面で求められる依頼、複雑な電話応対、交渉、感謝、クレーム処理、商品説明、企画などのコミュニケーションについて学習する。また、ビジネスメールについても学習する。1月には発表を行うが、テーマについては相談して決める。	プリント配布	授業参加度(出席・授業態度)40%、テスト20%、発表20%、課題20%
	日本語I/2特別演習B [プロジェクト]	伊能 裕晃 (いのう ひろあき)	月曜・1限	N3I3	日本人学生とのディベートやグループ活動を通して、日本語の総合的な運用能力を高める。	この授業では、日本人学生と一緒に日本語でディベートを行う。最初に、日本語でディベートを行う方法を基礎から学んだあと、学期の前半は、身近なテーマでディベートを行う。学期の後半には、現代社会の様々な問題について、資料を調べ、準備をして、ディベートを行っていく。学期の途中で、生成AIを使ったディベートの練習なども行う。この授業は学芸大の日本人学生のための授業「学芸フロンティア科目F」と合同で行われる。日本人学生と毎回会話をする授業であるため、この授業に参加する学生にはある程度の日本語の聴解力と語彙力も必要となる。	プリント配布	授業への参加度(出席、態授業態度)40%、課題30%、ディベートの評価30%